

ROTARY SERVING HUMANITY

人類に奉仕するロータリー

2016~17年度年度

国際ローター会長 John・F・GERM

Rotary  
東京麹町



## 東京麹町ロータリークラブ

50周年祝賀会まであと 35日

### 本日の例会プログラム

第31回例会 2018.5.7(#2200) 会場:舞の間  
例会ホスト・紹介係 保科君 会費係 杉本君  
受付係 齊藤君 荒川君  
司会者 乳井君 ソングリーダー 後藤君

### 卓話「ビジネスも外交も印象次第」

印象戦略コンサルタント 乳原 佳代氏  
紹介者 久保田会員

### 前回の報告

第30回例会 2018.4.23(#2199) 会場:悠の間  
例会ホスト・紹介係 澤本君 会費係 須藤君  
受付係 地引君 井関君

【オープン例会】司会者 時園君 ソングリーダー 浅野君  
卓話「AIもIoTも呉越同舟では勝てない」

ブロードバンドタワー代表・インターネット総合研究所代表

藤原 洋様  
紹介者 保科会員

### 会長報告

大変悲しいお知らせです。最長老の新村重晴会員が、病氣療養中でしたが、4月11日ご逝去されました。密葬はお済みで、弔問などはお断りしているそうです。後日社葬としてお別れ会が行われるそうです。黙禱を捧げたいと存じます。

- 1) 本日は、オープン例会として、外部の方にご参加頂いております。ロータリーの様子を感じ取っていただき、ご入会の運びとなりますようお願い致します。
- 2) 本日の卓話は、IT業界草分けの藤原様におねがい致します。
- 3) 過日、ご報告があったように、本地区に東京丸の内 RC が誕生日致しました。東京お茶の水 RC が親クラブとなりスタート致します。本日は上山地区拡大増強委員長、土居地区研修サブリーダーを始め牛島お茶の水 RC 会長皆様が、東京丸の内 RC の皆様をお連れ下さいました。

### 幹事報告

- 1) 期末の恒例であります新旧合同クラブ協議会は、皆様にオープンに参加して頂けるよう、例会にて開催いたします。今期の各委員長は1年間の活動報告をおまとめ頂き、発表して下さい。

### 例会記録

会員総数	44名	出席会員数	32名
ゲスト	1名	その他	12名
ビジター	6名	事務局	2名
海外ビジター	1名	出席率	74.42%

4月2日 Make-up 後の  
出席率 66.67%

### 【今週のMU状況】

乳井会員(4/19 神田RC)  
蘭会員(4/25 米山オリエンテーション)

### ニコニコボックス

上山昭治直前ガバナー(武蔵野中央 RC)  
東京丸の内RCを宜しくお願い致します  
牛島聡お茶の水RC会長  
東京丸の内RCを宜しくお願い致します  
東京丸の内RC  
今後ともご指導頂けますよう宜しくお願い致します。  
杉原会員:RI囲碁大会に5段で参加、二連勝の後、二連敗で終わりました。  
木元会員:オープン例会にご参加の皆様、有難うございました。  
若林会員:新本ガバナー・バニーご出席有難うございました。長男結婚しました!  
濱田会員:RI囲碁大会で、0勝2敗 残念!

### 次回予告

第32回例会 2018.5.14(#2201)  
会場:舞の間  
例会ホスト・紹介係 藤谷君  
受付係 荒川君 福田君  
会費係 濱田君  
司会者 乳井君  
ソングリーダー 後藤君

### 卓話「私のサントリーでの挑戦」

新浪 剛史氏  
紹介者 荒川君



# 世界からポリオをなくそう

ロータリー:人類のために活動します

www.rotary.org



50周年記念 ポリオ パネルディスカッション  
「山田<sup>つね</sup>彝・峰<sup>ひでじ</sup>英二両氏の功績とロータリー精神の未来」



平成 30 年 4 月 2 日例会の中で、他クラブから相当数のご参加も頂いて、当会 50 周年記念事業の一環として、開催されました。パネラーは、当会名誉会員の久木野利光氏(ご登壇)、当地区バスターガバナー浅川皓司氏(ご登壇)、当地区元幹事元那覇西 RC の大宜見齋氏(ご書面)、当地区バスターガバナー戸田一誠氏(ご登壇)、2830 地区バスターガバナー関場慶博氏(ご書面)です。当日の短い時間の中では語り尽せなかったこともおありですので、事前にご用意いただいたパネル資料を基に、パネルディスカッションを再現しました。

【久木野氏の発表「尊敬する先輩」】



◆山田さんは、1924 年生まれ、英独仏語に堪能な国際ビジネスマン、身長 180 cm 押し出しの良いスポーツマンで、酒好き、飲み出すと決して帰ろうと言ったことがありません。周りを明るく朗らかにする人柄。峰さんは、1920 年生まれ、軍医で潜水艦に乗船シンガポールで終戦、3 年間捕虜生活、九段坂病院泌尿器科部長、優しい人柄で女性にもてましたし、ローターアクトの支援に熱心でした。

◆1981 年に山田さんが RI の 3H 計画で南インドで約 1 ヶ月奉仕活動した時に、「公園で、ポリオのために両手両足が萎えて【蛇のように這う少年】に出会い、強烈なショックを受けた。同じ人間として何とかしなければならぬ。」と帰国報告がありました。この山田さんの報告を受けて、

【麹町 RC が WCS プロジェクトとして「ポリオ撲滅運動」を決議】し、1982 年には、麹町 RC の 15 周年記念事業として、100 万円相当のポリオワクチンを、両氏に託して南インド 320 地区マドラス RC に派遣しました。しかし、冷凍設備が無くワクチンが失効。これをきっかけに、山田さんはポリオ撲滅のためには、まずコールドチェーンの整備が不可欠であり、それは麹町 RC だけでは不可能であるから、258 地区と 275 地区に働きかけ、1983 年には、両地区が「南インドポリオ免疫プロジェクト推進」を決議しました。そして両地区の援助で、両氏は、南インドで奉仕活動を行いながら、両地区と一緒に、RI に、ポリオ撲滅を RI 全体のプロジェクトとするように働きかけました。その結果、1985 年 RI が、世界社会奉仕部門で「ポリオプラス免疫プロジェクト」を最優先順位とする決議をしました。

◆山田さん、峰さん、そして麹町 RC が世界を動かしたのです。その誇りと責任をしっかりと自覚するべきです。

【浅川氏の発表「両氏の思い出と功績」】

◆1984～1985 年度に私は地区のロータリー財団委員長をしていました。吉祥寺のガバナー事務所何度かお会いした山田さんは、RI に対して「ポリオを全世界的に取り組むべきだ」という手紙を熱心に書いていました。



◆山田さんは、謙虚な方でしたが、ポリオについては「人間の最低限の尊厳を守るために、世界中のロータリアンが責務として、力を合わせて取組み、必ず撲滅しなければならない」と熱く語ってくれました。

◆1987年の春先のことだと思いますが、私が海外出張のために成田空港に出向いたときに、通路で、山田さんと峰さんの二人とバッタリ出会いました。お二人がげっそり痩せていて、顔色も土気色だったので、「どうされたのですか？」とお聞きしました。彝さんが「インドからの帰りののですが、どうも二人ともインドの風土病に罹ったらしい。体調が良くないのです。」と元気に答えてくれました。まさか、そのような歴史的瞬間の生き証人になろうとは、思ってもみませんでした。

◆天然痘に続いて、ポリオが地球上から無くなるその時が近付いています。私は、地区のロータリー財団の委員長を二回やりましたが、ロータリー財団の中でも、ロータリー財団が、ノーベル平和賞の候補だとの声も耳にしました。RI や政府関係でも、ポリオ撲滅の手柄を主張する人を見かけますが、しかし、『最初に井戸を掘った人』とその苦労を、ロータリアンとして、人間として、絶対に忘れてはいけない、と思います。

### [大宜見氏の発表「両氏の想いを受け継いで」]



◆1987.8.13 付で、南インド 320 地区のガバナーから、峰さんに宛てた、ワールド・チェーン整備並びにポリオ接種活動への招請文書ですが、私が、山田さんから受け取ったものです。前年の春に、沖縄を訪問された山田さんと泡盛を飲みながら、「悲

惨な子供たちの状況を解決できるのは、私達ロータリアンしかない」と熱弁を奮う山田さんの顔を見ていると断り切れずに、引き受けてしまいました。

◆1988年1月～2月の約6週間、大仲先生と南インド 320 地区、321 地区、322 地区を訪問しました。行く先々で、「ツネ、ミネは元気でやっているか」「2人が私たちに光を与えてくれた」

「冷蔵庫にワクチンを保管していたら砂糖水になるではないか、港の冷凍庫に入れ替えなさいと俺を叱りよった頑固な二人はどうしている」とお二人の勇気ある行動を称賛してくれて嬉しかったです。



◆1989年に、渡印の時の交流がきっかけとなり、那覇西 RC に「大仲基金」が創設され、ウランバートルの P.S.G 医科大学の医学生に奨学金を付与しています。また、ウランバートルのポリオの青年を大仲先生の病院に治療のためにお呼びし、一年間の治療の結果、来日時には車椅子だった青年が、自分の足で歩いて帰った時の満面の笑みは忘れられません。



◆昨年8月に、東京麹町 RC の藤谷さんから、山田彝・峰英二さんのお話を聞きたいとのお電話を頂き、一緒に、南インドに行った大仲良一氏の病院で、お会いしました。

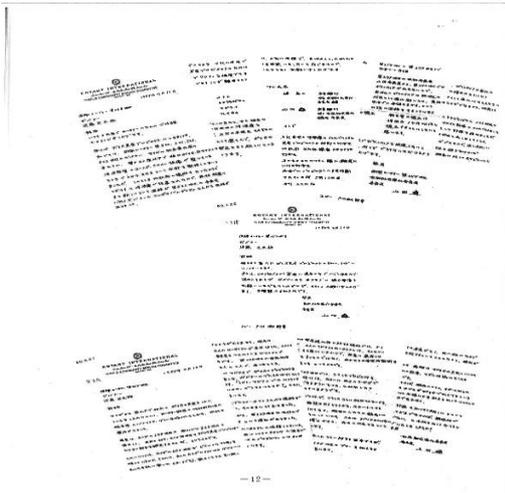
那覇西 RC でも最近の会員は、RI のポリオ撲滅活動が、山田さん・峰さんから始まったことを知らない人が多いという話に寂しい思いをしていましたが、大仲先生と話しているうちに、私も、当時の「血が滾る様な世界社会奉仕への想い」が蘇ってきました。私のロータリー生活の、そして人生の大きな土台となりました。

### [戸田氏の発表「麹町 RC の WCS プロジェクトから RI のポリオプラスプロジェクトへ」]

◆1984～85年度の地区幹事を引き受けて、当時ガバナー事務所に山積していた「彝さんのレポート」を整理し、R 財団からの補助金の流れを分かりやすくする作業を手掛けたことから、私たちは急速に接近しました。



◆山田さんと峰さんは、30年前の、経済的衛生的環境も劣悪だったポリオの最前線である南インドに、一ヶ月前後の出張を繰り返し、RI のポリオ責任者や、現地のロータリアンや、地域政府、病院などと試行錯誤と実践の中で、その後の RI が、「ポリオプラス」そして「POLIO END NOW」という全世界的なポリオ撲滅プロジェクトを推進するための考え方や方法論や実践方法を、構築するために奔走した、のです。



◆実は「思い出草 ポリオプラスのツネさんとミネさん」の近藤正夫パストガバナーが「山田さんの書簡から」という記事の中で紹介している「地区世界社会奉仕委員長の山田さんから近藤ガバナーに宛てた直筆の3通の書簡」は、私が、後年ガバナー事務所の移転に伴って廃棄されそうになったものを保管していたものです。

**【1985.4.19 便】R 財団特別助成金担当者から「カナダ638 地区から南インド 323 地区で独自のポリオ免疫をしたいという申し入れについての書簡」について・323 地区では、地元のロータリアンの中で、功績争いの様相があり、コールド・チェーンが確立されたというのでチェックしたら使えない冷凍庫だったことが確認されている。コールド・チェーン不備による効力を失ったワクチンの投与を受けた子供がポリオで死亡するという事態を避けるためにも、ポリオ 2005 の委員長のシーバー博士からも「プロジェクトは、コールド・チェーン施設のあるところからスタートさせる。」という基本方針に完全に同意するという手紙を貰っているの、これを堅持して、地域の争いに巻き込まれないようにしている。世界社会奉仕委員会委員長 山田彝**

インドへの出発前日にも拘らず、当時山田さんが、南インドにおいても、現地のロータリアン同士の調整や、地方政府との交渉などに奔走しながら、他方で、「まずコールドチェーンの整備されたところから」という基本方針を確立し、それをポリオ 2005 の委員長にも、認めさせ、カナダなどの他のクラブとの関係調整の基本的考え方とするなど、エネルギーで八面六臂の活躍をされている息遣いが聞こえてくるようです。

◆「命がけで、ここまで情熱を傾けた お二人の奉仕活動」は、今のロータリアンに対して、自らを振り返る掛け替えのないお手本であり、「奉仕の心」が、小さい人、少ない人に、多大なる示唆を与えてくれます。そのためにも、お二人の事実と偉大なる功績を、ロータリーの永遠のアーカイブとして、伝承するとともに、広く、日本の、そして世界

のロータリアンに、周知することが、麴町 RC の役割です  
◆私のところに、山田さんと RI との往復書簡が保管してあります。これが、山田さんこそが、RIにポリオプラス決議させた功労者である何よりの証拠だと思います。

**【関場氏の発表「インドにおけるポリオ撲滅活動の過去・現在・未来」】**



◆山田さん・峰さんが南インドで、1981年から取り組んだポリオ撲滅の活動は1988年に山田さん、1989年に峰さんがご逝去された後も、受け継がれ、やがて全国土にコールドチェーンを確立したインドにおいては、1995年12月

から NID 全国一斉

予防接種が開始されました。  
◆私が、インドに赴いた2001年は、その6年後ということになります。私は、全国のロータリアンを組織し、デリーのロータリアンとも協力して、以来18年間にわたって、NIDへの参加奉仕活動を継続し、2014年にはインドはポリオフリー宣言を行いました。山田さん峰さんが土地を開拓し土壌を耕してくれていたからこそ、花を咲かせることが出来たのだと思います。

◆POLIO END NOW 2018 が達成できなかった原因は、戦争、紛争、テロのため十分なワクチン投与活動が行われていないこと、一旦撲滅された国々でもワクチン接種率が下がったため、ワクチン由来のポリオが発生しているからです。私たちにできることは、ポリオワクチン接種の重要性を訴えつつ、現地でワクチン投与活動を率先して行っていくこと、国内でポリオ撲滅のための寄付金を集めることです。

◆ポリオ撲滅のロータリー活動に積極的に参加することによって、「世界の子どもたちの命を守り、子どもたちの未来を確かなものにする」ということがロータリーの大きな目的であることを再認識し、ポリオ撲滅活動を通してロータリアン同士の絆(フェロウシップ)をより強靱なものにすることができます。そして、ポリオ撲滅を達成することで、ロータリーの存在を世に知らしめ、何よりも私たち自身がロータリーへの誇りと自信を取り戻すことができるでしょう。普通の市井の人間である私たちロータリアンが自分の職業を成り立たせながら、自分のできる範囲での努力をすることで、世のため人のために何事かを成し遂げることができるのです。

## 山田彝・峰英二氏のポリオ年表

1978年 RI の東京国際大会で3H 計画を決議

**1981年** 山田さん RI の3H 計画で南インドで約1ヶ月奉仕活動。この時、公園で、ポリオのために両手両足が萎えて【蛇のように這う少年】に出会い、強烈なショックを受けた、と麹町 RC で帰国報告。この山田さんの報告を受けて、**【麹町 RC が WCS プロジェクトとして「ポリオ撲滅運動」を決議】**

**1982年 【麹町 RC が15周年記念事業として】**山田・峰さんを南インド第320地区マドラス RC1ヶ月派遣(1回目)。ポリオワクチン100万円相当を持参。しかし、コールドチェーンが無く、ワクチンが失効。

1982年 ・日本ではポリオフリー宣言

**1983年 ・258地区及び275地区が「南インドポリオ免疫プロジェクト推進」を決議**

**1984年4月** 山田・峰さん南インド奉仕活動1ヶ月・2回目、1000万円を超えるポリオワクチン持参

**1984年 ・山田さんと258地区及び275地区が、RI へ働きかけ**

**1985年2月・RI が、80周年に当たって、世界社会奉仕部門でポリオプラス免疫プロジェクトを最優先順位にする旨の【ポリオプラス計画】を決議し、ポリオ2005委員会を設置**

**1985年4月・山田・峰さん3回目**の南インド奉仕活動 1ヶ月

**1986年 1月・山田・峰さん4回目**の南インド奉仕活動 16日間 16か所の冷凍設備の有無を見て回った。「相当大変で肉体的にも疲れたが、溶けてしまい効能を失ったワクチンにより、子供たちが死んでしまうという悲惨な現状を眼前にして大変な精神的ショックを受けた。こんなことがある限り、私たちにとって本当の意味での世界平和はない。」

1986年3月 ・山田さん、那覇西 RC を訪問、大宜見さんに要請、受諾。

1986年7月・RI は、5年間で1億2,000万ドル(約200億、日本分40億)募金決議。・当時世界に約50万人のポリオ患者

**1987年春先・山田・峰さん5回目**の南インド奉仕活動、帰国の成田空港で浅川 PG と遭遇、顔色優れず、体調悪

そうで、「どうも二人ともインドの風土病に罹ったらしい」と山田。

1987年7月・山田さん麹町 RC 会長就任。20周年。11月・山田さん入院

1988年1月・峰さん入院

**1988年1月・大宜見さん、大仲さん南インドへ28日間奉仕活動**

1988年 RI と WHO が「世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)」を立上げ。この年の患者発生は、125か国 355,255 人

**1988年7月12日・山田さんご逝去** ◆信条「真理、真実の探求のためには、何事も恐れてはならない」

**1989年6月9日・峰さんご逝去** ◆信条「必要とする者ニ与エル」

1991年6月・2億1,700万ドル達成日本48億

1994年・南北米対立地域 フリー宣言

2000年・西太平洋地域 フリー宣言

2001年・関場さんインド(デリー)での NID への生ワクチン接種ボランティアを開始

2002年・ヨーロッパ地域 フリー宣言

**2013年5月・RI と WHO が【ポリオ撲滅・エンドゲーム戦略計画(POLIO END NOW 2018)】を立上げ** 残 8カ国 416 人

2014年・南アジア地域・インド フリー宣言 残 9カ国 352 人

2015年・残3カ国(パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア) 77 人

2016年・残3カ国(パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア) 37 人

2017年・残2カ国(パキスタン、アフガニスタン) 15 人 **達成率 99.9958**

### 東京麹町ロータリークラブ

設立	1968年6月17日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204 号
		TEL:03-3263-9220
会長	久保田智也	FAX:03-3263-9122
幹事	莊村 明彦	e-mail office@koujimachi-rc.jp
会報委員長	木寅 雅之	URL: www.koujimachi-rc.jp

飯舘で再開の学校に  
顕微鏡とカメラ贈る

福島南・東京麹町RC

福島南ロータリークラブ  
(RC)と同RCの姉妹ク  
ラブの東京麹町RCは11  
日、今春飯舘村で学校を再  
開した草野、飯樋、白石の



草野、飯樋、白石の合同小と  
飯舘中に教材を寄せた福島  
南、東京麹町両RCの会員ら

合同小と飯舘中にデジタル  
顕微鏡1台とデジタル一眼  
レフカメラ2台(計51万4  
728円)を寄贈した。

両RCは震災後、復興支  
援などを目的に姉妹クラブ  
協定を結び、共同奉仕とし  
て2015(平成27)年か  
ら毎年、同村の学校に図書  
や教材の寄贈を行っている。  
る。

贈呈式は、同村の合同小  
と飯舘中が入る新校舎で行  
われ、福島南RCの横山り  
つ子会長と東京麹町RCの  
久保田智也会長が、合同小  
6年の巻野陽菜さんと庄司  
大夢君にカメラを、飯舘中  
3年の千葉萌香さんに顕微  
鏡を手渡した。

久保田会長と横山会長が  
あいさつし、飯舘中の赤石  
沢涼さんが「支援を忘れず  
授業や学校生活に取り組  
む」とお礼の言葉を述べた。



贈呈式に臨んだ(前列右から)久保田会長、横山会長、  
巻野さん、庄司君、千葉さん、赤石沢さん、吉川校長ら

飯舘の小中に顕微鏡、カメラ

福島南 東京麹町RC寄贈

福島南東京麹町(東京) 年、赤石沢涼さん(同) 両ロータリークラブ(RC) に寄贈品を手渡した。 は十一日、飯舘村の草野・横山会長は「学校に通う 飯樋・白石小、飯舘中の小 子がいる限り、まていの心 中一貫校に教材として生物 顕微鏡一台とデジタル一眼 田会長は「立派な大人にな レフカメラ二台(計約五十 しい」とあいさつした。児 一万円相当)を寄贈した。 童・生徒代表の赤石沢さん 両RCは二〇一五(平成二 十七)年度から復興支援と が「教材を活用し、授業や して飯舘村の小中学校に図 書や教材を贈っている。 贈呈式が小中一貫校の多 目的ホールで行われた。福 武彦校長が立ち会った。 島南RCの横山りつ子会 長、東京麹町RCの久保田 智也会長が草野小の巻野陽 菜はる(な)さん(六年)と庄 司大夢(ひろむ)君(同)、 あるラオスの人向けのボス 飯舘中の千葉萌香さん(三 十一)制作などに役立てる。